

連載

健康コラム

今回は…

vol.120

口の中の力持ち…舌



健康推進係 歯科衛生士

赤ちゃんにとって舌は、栄養補給のための大事な器官です。おっぱいを飲むときに大きく口を開き、お母さんの乳首をパワツとくわえ、舌を動かしながら乳首を押しつぶし搾り出すように母乳を飲んでいきます。そして赤ちゃんのしごくような舌の動きによってホルモンが促され、ますます母乳が作られるのです。

日々の成長に伴い赤ちゃんの口の機能も「母乳を飲む口」から、段階を踏んだ離乳食を通して「食べる口」へと成長していきます。

まず、哺乳反射がだんだんなくなり唇を使って食べ物や飲み物を判断して取り込むことを覚えます。そして、唇、頬、舌、顎を全て使って食べ物をすりつぶす、かみつぶす、混ぜ合わせるなど、さまざまな動きができるようになっていきます。食べる機能が育つと同時に話す機能も育ちます。おもちゃなどに運び、その物性を確認することは口を発達させるトレーニングといえます。

また話すことをマネしながらトレーニングを繰り返すうちに、舌が正しい位置に収まります。口を上手に閉じることができるようになるとよだれも減り、大人の口へと一歩近づいていきます。



地域おこし協力隊
平澤津 あや

持田 初穂さん

前回のスゴイ人

「ゴッタンで地域の絆をつなぐ」

徳石 昭子さん

の思うスゴイ人は…

連載
vol.16

地域おこし協力隊が行く！

実は隣のスゴイ人

どんなスゴイ人にもきつと「この人には敵わない」って人がいるはず。そんな「曾於市のスゴイ人が思うスゴイ人」に協力隊が会ってゆく、リレー型連載です！

大隅町でとても精力的に活動されている方なの。とても勉強になると思うから、たくさんお話聞いてね。



園児たちが園庭で捕まえた昆虫を「これ何？」とよく聞きにくるそう。図鑑が常備されています。



教室をのぞくと「見て！」と笑顔で駆け寄ってくる園児たち。笑い声が常に響いていました。

今回お会いしたのは持田初穂さん。今まで、芙蓉会やそば打ち、古事記関係など様々な場面でお会いしていましたが、初めて、ゆっくりとお話をうかがうことが出来ました。

持田さんは大隅町月野出身。鹿児島市内でサラリーマンとして働いていましたが、昭和53年にお父さんが太陽の子保育園を設立するという事で帰郷しました。現在は岩川保育園も含めた2園を引き継ぎ、園長として子ども達の保育に携わっています。

「2つの園には頭の健康・身体の健康・心の健康という3つの柱があるんです」と持田さん。なにより、この時期にしか育たない「感性」を大切に育てることを第一に、食事や運動、伝承芸能など様々な角度から考えていらつしやいました。

持田さんは、現在でも出来るだけ園庭に出て、園児と一緒に倒立前転や鉄棒などもするそうです。手本を見せ、同じ目線に立って、たくさん経験させることで将来の選択肢を増やしたい。そして、「20年、30年後のことも達がちゃんとした日本人として育ち、この国のリーダーとなるよう育ってほしい」と話します。

30年以上園児たちと向き合い、地域のために活動を続ける持田さん。その信念は子ども達だけでなく、地域の人たちにもすっかり伝わっていると感じました。